

赤野井湾底質改善水域モニタリング調査

中嶋拓郎・鈴木隆夫

1. 目的

赤野井湾では漁場環境改善のため、平成4年度から平成10年度にかけて浚渫と覆砂が行われた。本調査は、それら事業の現状を把握することを目的に実施した。

2. 方法

平成29年9月に、平成4、6、8および10年度に施行された覆砂区4地点（図1）にてアクリルパイプで柱状試料を採取して泥の堆積厚を目視にて計測した。また覆砂区4地点と無覆砂区1地点（図1）にて、底層の溶存酸素量（DO）を計測するとともに、エクマンバージ採泥器で1地点につき3回採泥後、試料を2mmのふるいにかけて、ふるい上に残った貝類について、種類別の個数を計数した。

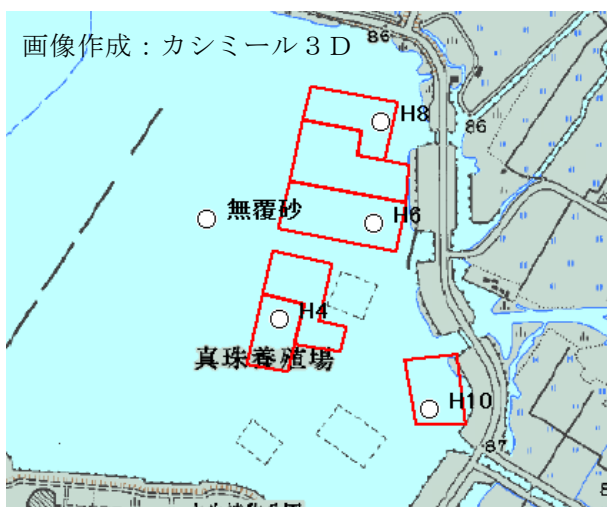


図1 調査地点図

3. 結果

各定点の泥の堆積厚は、平成4年度覆砂区が0.5cm、平成6年度覆砂区が1.8cm、平成8年度覆砂区が1.7cm、平成10年度覆砂区が3.0cmであった（表1）。

各定点の底層のDOは、1.9mg/l～7.6mg/lであった（表1）。平成8年度覆砂区では低い値が確認されたが、これは周囲に繁茂していたヒシの影響である可能性が高い。

貝類の生息状況は、シジミ類が平成4年度覆砂区で96個体、平成6年度覆砂区で6個体、平成8年度覆砂区で12個体、平成10年度覆砂区で5個体確認された（表1）。また無覆砂区でもシジミ類が2個体確認された（表1）。全体的に無覆砂区と比べて覆砂区でシジミ類は多い傾向にあると考えられた。

今後も調査を継続し、覆砂区の現状をモニタリングしていく必要がある。

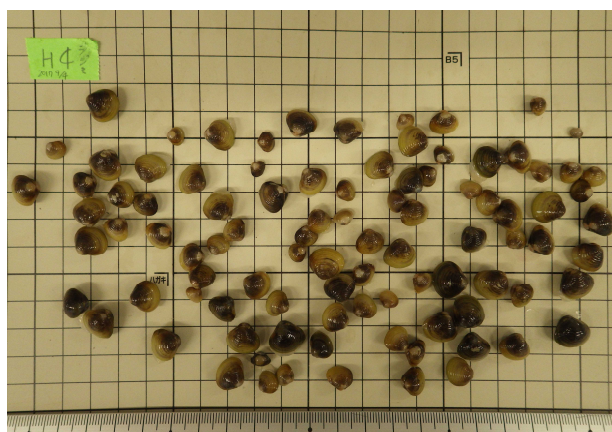


図2 平成4年度覆砂区で確認されたシジミ類（平均殻長10.0mm）

表1 水質・底質調査結果

地点名	泥堆積厚(cm)	底層DO(mg/L)	シジミ類	タテボシガイ	ヒメタニシ
			数	数	数
H4覆砂	0.5	7.6	96	3	52
H6覆砂	1.8	4.2	6		7
H8覆砂	1.7	1.9	12		8
H10覆砂	3.0	5.9	5		11
無覆砂	-	7.6	2		4

本報告は水産業強化対策推進交付金の助成を受けて実施した。